

# サン・プロカラーサービス [写真製造・加工] DreamLabo 5000

SunProColorService Co.,Ltd.

人生の節目となる写真を次世代まで残すアルバムを作ること。  
そしてその品質をフォトブックやカタログ、チラシにも展開していくこと。  
当社技術とDreamLabo 5000 なら、それができると考えています。



株式会社サン・プロカラーサービスは1976年に設立された写真製造・加工・画像処理会社で、プライベートやコマーシャル、医療、測量用航空写真など幅広い分野の業務を手がけています。2017年3月、サン・プロカラーサービスはインクジェット印刷機・DreamLabo 5000 を導入。写真・映像にまつわる、さまざまなサービスを高い品質で提供する同社は、DreamLaboをどのように評価し、どう活用しているのでしょうか。導入の経緯から今後の活用の可能性について、代表取締役社長 中元靖武さん、取締役 管理営業本部部長 中元邦雄さん、製造部プリント課課長 吉岡圭さん、管理営業本部カスタマーサポート長 松永芳明さんにお話を伺いました。

— まず、創業から現在まで、業務がどのように変化してきたのかをお聞かせください。

**中元靖武** ● 創業のきっかけを遡ると、田中角栄首相が打ち出した「日本列島改造論」(1972年)によって産業の分散化と地方の活性化という動きがありました。その開発の流れを受けて、当時の日本列島の様子を写真に収めるというプロジェクトがあったんですね。日本各地でその事業を担当する現像所が手を挙げたのですが、九州だけが空白だったので私が手を挙げました。ちょうどその頃に山陽新幹線が開業したこともあり、アジアの中心都市を目指した博多の発展とともに、私たちも仕事を増やしていきました。建築写



同社では商品企画から写真加工、出力、製本まで、トータルな製作を社内で行っている。フォトアルバムのラインナップにはキャンバスや木材、本革など、さまざまな素材を表紙に使用したものが並び  
http://www.sunprocolor.co.jp/

真や広告写真などさまざまでしたが、まもなく人も機械も足りなくなり、各地に現像所を作って写真・映像の加工業に徹していくと決めました。現在の業務は結婚式や成人式、七五三などのポートレートやアルバム、コマーシャルや航空写真、写真の加工などを行なっています。商品は社内で企画しているほか、お客さまの要望を受けて社内スタッフが試作を繰り返しながら開発をしています。

— その間、技術的にもさまざまな変化があったのではないのでしょうか。

**中元靖武** ● 一番劇的に変わったのは、撮影がフィルムからデジタルに変わったことですね。私自身はアナログ派なのですが、アナログからデジタルに変わるだろうという予測は20年前からしていたので、さほど抵抗はありませんでした。スタッフがよくデジタルについて勉強していましたから、会社としてもうまくデジタルに移行できました。フィルム時代は大安の結婚式の後は、営業が鹿児島から宮崎、熊本と全九州にある営業所を回ってフィルムを回収し、宅急便で福岡の現像所に送るということをやっていたのですが、今はデジタルで撮影したデータをネットで送り、スタッフが加工して出力するという流れになったので非常に対応がシンプルになりましたね。いまでもいくつかの写真館や個人の方からフィルムが持ち込まれることはありますが、入力側、つまり撮影自体は95%がデジタルに置き換わりました。出力側のプリントにはまだ銀塩が残っているという状況です。

**吉岡** ● 撮影がデジタルに変わった後も「銀塩がいい」という写真館がまだまだありますから、完全にデジタルに置き換えることはできません。現状の出力の割合は銀塩:デジタル=7:3で銀塩のほうが多いのですが、デジタルデータを銀塩で出力することには違和感がある。やはりデジタルデータはデジタルで処理するほうが良いと考えています。

— 2017年にDreamLaboを導入されたきっかけと、導入したメリットを教えてください。

**中元靖武** ● 入力がフィルムからデジタルに変わって以来、新しい出力機が出るたびに導入の検討はしていましたが、これまで導入したものはどれも一長一短がありました。

DreamLaboを導入する決め手になったのは、ラミネート不要かつ暗所保存で300年という耐久性です。アルバムなどには欠かすことができないラミネート加工は、ゴミひとつなく処理しなくてはなりませんから、加工にも検品にも非常に手間と時間がかかっていました。ラミネートなしでも十分な光沢感と耐久性を備えるDreamLaboならばこうした課題を解決できると考え、導入を決定しました。

**吉岡** ● 銀塩機のように液やペーパーの管理に手間をかける必要がないので、作業に集中できるのがいいですね。色も安定しており、再出力でも同じ色を得られるのも大きなメリットです。銀塩プリントでは出すたびに色が微妙に違いますが、DreamLaboではそうした色の振幅を考慮する必要がなくなりました。

— DreamLaboのプリントをご覧になったときの印象はいかがでしたか。

**松永** ● 感動を覚えるほど、とにかくきれいだと感じました。あくまで主観的な印象ですが、これを手取るユーザーも同じように感じてもらえるはずだという確信がありました。

**吉岡** ● 私は銀塩にはない、奥行き感を感じました。色域が広いので銀塩では切り捨てられていた深い色やあざやかな色、銀塩ではつぶれていた暗部の階調部分がDreamLaboではすべて表現できています。

**中元邦雄** ● 色のキレがすごくいい。コントラストがあってシャープな発色です。スマートフォンやパソコンの画面表示に近い印象を受けるのか、若い世代の人たちは銀塩プリントよりもDreamLaboのプリントを好まれますね。

**中元靖武** ● 空気感が違うのでしょうか。過去に成人式の写真を撮ったお客さまに銀塩プリントをお渡ししたとき、スタジオからもらったデータを自宅のプリンタで出したほうが、あざやかな金赤や中間調の驚色がきれいに出る、とお叱りを受け



同社で製作した写真集の一例。銀塩とは異なり、細かい色の調整を行なわなくても、イメージ通りの表現ができるのが、DreamLaboの強みだという



たことがありますが、DreamLaboならそうした色もしっかり出すことができます。実際に銀塩で見ていた写真をDreamLaboでプリントすると、こんなにきれいな写真だったのかとびっくりするほど、発色も質感も違いますから。

— DreamLaboの用紙についてはどのように評価されていますか。おもに使われている紙は何でしょうか。

**吉岡** ● メインで使っているのは厚手の光沢タイプですね。誰が見ても発色や質感、光沢感がいいと感じていただけると思います。

**中元靖武** ● 色の表現としては、落ち着きのあるラスタタイプも評価が高いですね。

**松永** ● 私が担当している大手のアルバム案件ではサテンタイプを評価いただいています。それまでは何度足を運んでも、採用に至りませんでした。DreamLaboのサテンタイプで提案したところ取引につながりました。用紙ごとにそれぞれの魅力があるのがいいですね。

— DreamLaboのプリントに対して、写真館はどのように評価されているのでしょうか。

**中元邦雄** ● インクジェットプリントという表現に



写真加工技術を活かし、古い写真を復元して作成した自分史のサンプル。ユーザーの要望に合わせて、写真の加工から出力、製本まで行なえるのが同社の強み

抵抗感を示される方もいますね。いくらきれいに出ているでも「インクジェット=家庭用」と捉えられてしまうのです。そのため、当社ではDreamLaboをインクジェットプリントと言わず、デジタルプリントと表現するようにしています。

**中元靖武** ● エンドユーザーはとにかく目で見て、きれいなものを求めています。一方で、写真館側には「家庭では出すことができない、銀塩プリントこそプロの仕事」と考えている方もいますから、完全にDreamLaboに移行できていません。これは解決すべき課題ですね。

**松永** ● エンドユーザーに直接、DreamLaboの魅力の説明することができないというのは、BtoBゆえのもどかしさを感じる点です。ラミネートして当たり前という固定概念を覆して、銀塩にはない、DreamLaboの美しさをユーザーに届けたい。そのための提案をしていくことが、私の使命だと感じています。エンドユーザーの事例も増えているので、BtoBでこれだけDreamLaboのアルバムが普及したという、先駆者になれれば良いと思っています。

— DreamLaboに感じる可能性と、今後の活用予定についてお聞かせください。

**中元邦雄** ● DreamLaboのプリントは直感的にいいとわかるクオリティを持っていますから、今、他社の商品を使っているお客さまに積極的に提案をしていきたいですね。すでに当社に切り替えていただいているところもあるので、そうした提案を今後、さらに増やしていく予定です。

**中元靖武** ● 現在、活用しているアルバムやフォトブックはもちろんですが、カタログやチラシにも展開していきたいと考えています。ゆりかごから墓場まで、人生の節目となる写真を次世代まで残すお手伝いをする。DreamLaboならそれができると考えています。

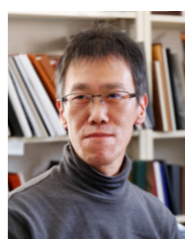
**中元 靖武**  
Yasutake Nakamoto  
株式会社サン・プロカラーサービス  
代表取締役社長



**中元 邦雄**  
Kunio Nakamoto  
株式会社サン・プロカラーサービス  
取締役  
管理営業本部 部長



**吉岡 圭**  
Kei Yoshioka  
株式会社サン・プロカラーサービス  
製造部プリント課 課長



**松永 芳明**  
Yoshiaki Matsunaga  
株式会社サン・プロカラーサービス  
管理営業本部  
カスタマーサポートセンター長



株式会社サン・プロカラーサービス/福岡県福岡市南区。「21世紀のビジュアルコミュニケーション」の提案を目指し、航空写真やプライベートアルバム、広告ディスプレイなど、写真・映像全般の制作・出力を手がける。顧客の要望にあわせて、企画からデザイン、出力、加工まで幅広い対応ができるのが強み。DreamLabo導入によって、ウェディングアルバムやフォトブックのラインナップを拡充中。